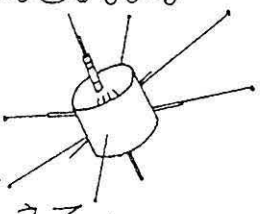


人工衛星



プラネタリウムの話題「大空をこえて」

夜空を見上げると、時々、星と星の間をぬって、ゆっくりと移動する光の点を見ることがあります。これは地球のまわりをまわっている人工衛星で、1等星ぐらいの明るさのものもあります。現在、人工衛星は、大きいものや小さいものをあわせて、数千個もまわっているといわれています。気をつけて見ると、意外と見つける機会が多いものです。

人工衛星は、今ではたくさんまわっていますが、世界で初めての人工衛星は昭和32年11月、ソ連によって打ち上げられた「スプートニク1号」で、今からちょうど30年昔のことでした。

この「スプートニク1号」からおくれること13年、昭和45年の2月に、日本で初めての人工衛星「おおすみ」が誕生しました。

そのあと、日本で今までに、38個の人工衛星が打ち上げられています。日本で打ち上げる人工衛星は目的で、大きく2種類に分けられます。

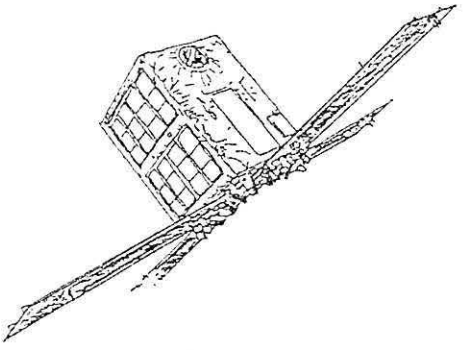
1つは、宇宙開発事業団によって打ち上げられている実用衛星です。これは私たちの生活の中で直接役立っている人工衛星です。たとえば、この仲間には毎日の天気予報で、雲の画像を36000kmの上空から送ってくる気象衛星の「ひまわり」や、宇宙中継などをおこなっている通信衛星の「さくら」、また最近では人工衛星から直接

テレビ電波を送って各家庭で受信する衛星放送が始まりましたが、この放送をおこなっている放送衛星「ゆり」などがあります。

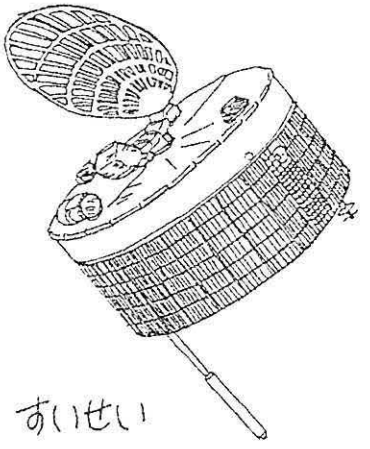
もう1つは、宇宙でいろいろな科学観測をする人工衛星です。これらは宇宙科学研究所から打ち上げられていて、このなかには、X線観測衛星や、すい星探査機「すいせい」があります。

X線観測衛星とは、遠く宇宙のかなたにあるX線をだす星からやってくるX線を調べて、その星の正体を探ったりする人工衛星で、「はくちょう」、「ひのとり」、「てんま」、「ぎんが」の4つがあります。

「すいせい」は、去年太陽に近づいたハレーすい星を調べたものです。この探査機はハレーすい星の核に約150000kmまで近づき、核からガスの吹きだしのようすなどをとらえるなど、多くの成果をあげました。（布村克志）



ぎんが



すいせい

富山市科学文化センター
富山市西中野町3丁目1番19号（〒939）
電話 富山（0764）91－2123（代表）

昭和62年 9月 1日 発行

富山市科学文化センターでは、星空のテレフォンサービスをしています。
いろいろな星のお話が聞けます　TEL.（0764）31－0199